平成12年(2000年)5月1日　第７００号

世帯と人口

（４月１日現在）

世　帯	43,016	（＋　9）
人　口	117,218人	（－195）
男	60,089人	（－127）
女	57,129人	（－　68）

広報えびな

編集・発行
海老名市役所　広報広聴課
〒243－0492
神奈川県海老名市勝瀬175番地の１
☎（046）231・2111
URL http://www.city.ebina.kanagawa.jp
＊この広報は再生紙を使用しています。

リサイクルセンターではポリ袋のリサイクルも行われます

21世紀へ前進する海老名⑯

環境を考え ごみ0（ゼロ）実現

わたしたちが生活をしていくうえで、いろいろなごみが発生しています。もちろんごみの再資源化を図るため、リサイクルを推進する努力を続けていますが、ごみの発生は「生活するうえで多少はやむを得ない」と考えてしまいがちです。しかし、長年にわたり工夫と研究を重ねて、文字通り「ごみ排出ゼロ」を実現した企業もあります。

30年前から可能性を追求

本郷にあるこの企業は主にオフィスなどで使われる複写機やパソコンのプリンターなどを製造しています。昭和46年の操業開始以来、リサイクルの必要性を考え続け、紙の分別方法や使用済み製品の再利用を研究し、考えられる限りの可能性を実践してきました。「ごみゼロを実現するためには徹底した分別が必要になります。敷地内には社内外を含め約５０００人の従業員が働いていますが、最初は一人ひとりが環境を、地球を守ろうとする意識を育てることから始めました」と話すのはリサイクル推進を担当している環境統括グループ長の鳥海さん。

ここでのリサイクルは、事業所の中で排出される缶・びんや紙、食べ残しなどを〝資源〟として、より効率よく再利用できるよう24種類に分別することから始まります。オフィス各フロアの「ダストコーナー」で分別された資源は、敷地内の「リサイクルセンター」に運ばれ、さらに入念な分別の再チェックを行います。その後それぞれの資源に適したリサイクルの流れに乗せられ、食べ残しは堆肥に、プラスチックは加工しやすいように溶かされ、原料等として使われます。

中でも特筆すべき点は、食べ残しの堆肥化・再利用。再資源化でできあがった堆肥を周辺農家が利用し野菜を育て、そしてこの野菜を社員食堂で調理に利用するといった流れを実現し、まさに地球で行われている生態系にも似た循環が地域間で行われています。

ダストコーナーで分別を徹底

平成８年、ＩＳＯ１４００１という、国際標準化機構が規定した環境マネジメントに関する規格が制定され、この企業も平成９年に市内でもいち早く認証を受けています。

廃棄物ゼロを実現した後の目標は「今より少ない原材料等で、現在と同等以上の製品やサービス提供ができるようよりいっそうの効率化を実現すること」だそうです。

わたしたちの生活におけるごみゼロの実現はたやすいものではありませんが、こうした実例を目の当たりにすると、一人ひとりの意識の持ち方次第では決して不可能なことではないのかもしれません。